

暑中お見舞い 申し上げます



大崎町長 東 靖弘

厳しい暑さの毎日ですが、町民の皆様方にはお元気で過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、公共交通機関の整備状況が十分とはいえない大隅地域において、高速自動車道の整備は悲願でありましたが、皆様ご承知のとおり東九州自動車道の鹿屋串良ジャンクションから曾於弥五郎インターチェンジ間が、いよいよ今年度中に供用開始となります。

さらに、県内でも初めてとなる『地域活性化インターチェンジ』としての『野方インターチェンジ』も、年度内の供用開始に向けて着々と整備が進められているところでございますが、同区間内に休憩施設が設置されないことから、町の事業といたしまして『野方インターチェンジ』付近に、道の駅整備事業により、休憩機能や情報発信機能、地域との連携機能などを備えた施設を新たに整備することにいたしました。これにより、利用者の利便性の向上が図られ、交流人口が拡大することなどにより地域の活性化が期待できるものと考えております。

また、来年3月末をもって閉校となる有明高等学校の跡地につきましては、日本のトップクラスの陸上競技選手がトレーニングに訪れるよう

な陸上競技場などが、鹿児島県により整備される方向でその整備構想が策定されつつあります。これが完成すれば、本町の未来展望においても大きな核となる拠点施設となりますので、この機運を千載一遇の好機と捉え、関係機関との協議・連携を密にしながら、地域活性化に向けた施策を町としても展開してまいりたいと考えております。

加えて、昨年末に大隅半島を舞台とした映画『マンゴーと赤い車椅子』の撮影が行われ、来年早々にも公開予定と聞いておりますが、本町をはじめ大隅地域の美しい景色や魅力を県内外に広く情報発信する媒体として最大限に活用しながら、大隅地域の知名度や来訪意欲を高めていきたいと思っております。

一方、本町の抱える問題の解消にも強い危機感を持って取り組んでいかなければならないと考えております。特に、最優先に取り組むべき課題は、若者の定住化対策であろうと位置づけております。少子高齢化が進んでいく中において、本町が将来にわたって持続的に発展していくためには、若者が定住できる環境、安心して子育てができる環境を整えるなど、人を呼び込むための施策が必要であると痛感しております。

さらに、国際的な問題としまして、環太平洋連携協定（TPP）交渉の行方は、依然として予断を許さない状況であり、農業政策への影響が大変危惧されるところでございます。また、北朝鮮による日本人拉致問題の解決に向けての協議が進められておりますが、本町にも特定失踪者に該当すると思われる方がいらつしやることもあり、早期解決を祈りつつ協議の行方を注視しているところでございます。

これらは、本町にかぎった課題ではなく、全国の地方自治体に課せられた課題であろうと思われませんが、目前の諸問題にひるむことなく、本町発展のため、そして住民福祉の向上に向け、今後も全力を傾注してまいりる所存でございますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

まだまだ暑い日が続きますので、水分を十分に補給するなど熱中症対策にも留意され、ご家族皆様で楽しい夏をお過ごしくださいとお祈り申し上げます。

平成二十六年 盛夏

大崎町長
他職員一同